

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時：2023年10月26日 19時00分～20時00分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：尿沈渣を極める③～異型細胞編～
- 4 講師：石松 寛美（越谷市立病院）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 308名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華
小針奈穂美 織田喜子 渡邊裕樹

8 研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、「尿沈渣を極める」シリーズ③ 異型細胞編として、石松氏を講師に Web にて開催した。石松氏より、異型細胞を見極めるポイントについて尿沈渣検査と尿細胞診のそれぞれの観点から解説があった。

尿沈渣検査で異型細胞を見極めるためには、正常細胞や組織像を理解し、採取部位や採取方法の確認、性別、年齢、既往歴を把握することが重要である。

尿沈渣を鏡検する際には、まず、弱拡大で全体の背景を観察し、壊死性背景、血性背景、炎症性背景のどれに該当するかを把握する。そして、細胞が集塊で出現していた場合は、結石の存在や良性腫瘍、高度の炎症、放射線治療や化学療法による影響も考慮して観察する。次に、強拡大で疑わしい細胞を観察する場合は、細胞の核所見や細胞質の大きさや形を把握することがポイントであるとのことであった。

異型細胞の核所見は、N/C比の増大、核形不整、クロマチンの増量などを示し、細胞が集塊状で出現している場合は、もとの組織学的構造を反映しているため、出現している細胞集塊がどの組織由来であるか推定でき、良悪性や組織型の鑑別に役立つと説明があった。細胞集塊の出現パターンの説明では、乳頭状配列や柵状配列など聞きなれた用語もあったが、ホブネイル、層形成様配列、一列縦隊など一般検査では聞きなれない用語も多くあった。集塊状で出現した細胞には、細胞極性が存在しており、正常細胞では細胞の向きが均一で規則性がみられる。対して、異型細胞では、細胞の配列が不規則で、様々な形態を示していることも

良性と悪性の鑑別に役立つポイントである。

1つの所見にとらわれず、総合的に判断し細胞像から組織像をイメージし、一般検査や細胞診検査(病理検査)の枠を飛びこえ形態学的に判別することが重要であるとのことであった。

尿沈渣検査における異型細胞の鑑別は、膀胱がんや尿管がん、悪性リンパ腫など多岐にわたる異型細胞を検出することが可能であるが、正常細胞や細胞の出現様式を理解することが重要であると考えられた。尿沈渣検査の熟練した技師においても業務に役立つ新たな知見が得られた内容であった。

提出日：2023年11月24日

文責：渡邊裕樹